

# 数学

一橋大学 (前期) 1/1

## <全体分析>

試験時間	120分	解答問題数	5題
------	------	-------	----

### 解答形式

全問記述式

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

例年、誘導の付かない問題が出題されるが、今年度は5題中4題が誘導なしであった。易し目の問題から難しい問題まで出題され、分量も配慮されている。数学の実力差がはっきりと表れるであろう。

### 出題の特徴や昨年との変更点

幅広い分野から万遍無く出題され、レベルが高い。整数と確率は例年出題され、空間図形の問題も出題頻度が高い。

### その他トピックス

⑤の確率の問題は、今年度の東京大学文科の確率の問題と似た問題であった (一橋大学の「3点、三角形」を「4点、四角形」にしたものが東京大学の問題)。

【ズバリの中】…本試⑤と、高校グリーンコース「高3 トップレベル文系数学」I期第6講がズバリの中。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
①	整数 数列	数学A 数学B	和が2024になるような整数の組 $(m,n)$ を求める。 2024を素因数分解して、素因数の振り分けを考えるが、すべてを正確に効率よく調べるのは骨が折れる作業である。	やや難
②	微分法 積分法	数学II	2つの放物線がある点を共有し、その点における接線が直交するときに、2つの放物線で囲まれる部分の面積の最小値を求める。	標準
③	式と証明	数学II	割り算に関する条件を満たす4次多項式を決定する。	やや易
④	空間ベクトル	数学B	(1) ひし形となる条件を求める。 (2) (1)のときに、そのひし形の面積の最小値を求める。対称式に注意して、上手く処理したい。	標準
⑤	確率 数列	数学A 数学B	円に内接する正 $n$ 角形 ( $n$ は奇数)の頂点から3点を選ぶとき、円の中心がその三角形の内部に含まれる確率を求める。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

一橋大の問題はシンプルなものが多いが、誘導が少ない分、確かな実力が必要である。典型的な問題を理解しマスターしたうえで、過去問の演習によって思考力・計算力も鍛えよう。また、かなり難しめの問題も出題される。初見の問題に対しても方針を立てられるようになるために、良問を考え抜く勉強もしたい。